

横浜市産のお米を食べよう!!

みんなは、横浜市中で作られたお米を食べたことはあるかな? 横浜市の田んぼとお米について、くわしく紹介していくよ!

横浜市の水田状況

田んぼの面積 **119ha** 収穫量 **591t**



はろみ
名前の由来 開成地である神奈川開成郡地域の「薄れた海」に由来する。
お米の特徴 コシヒカリと比べてツヤがあり、あまみ、ねばりが強い。冷めてもおいしい。



キヌヒカリ
名前の由来 稲のようなツヤが特徴であることから名づ。
お米の特徴 ソフトなねばりで少しさっぱり目の印象。

てんこもり

名前の由来 富士山のブランド米「てんたかく」とのシリーズで名付けられる。食感をさせる名前。
お米の特徴 甘味が強く、ツヤがあり、大粒でしっかりとした食感がある。

さとしまん

名前の由来 わが国を自慢したいということから、「さとしまん」と名づ。
お米の特徴 コシヒカリよりもつぶが太く、もちもちとした食感。おにぎりやお弁当に最適。

横浜の農景観(寺家ふるさと村)

森と森との間に広がる水田を「谷戸田」と呼ぶよ。右の写真のような風景が横浜市には残っているんだ。



お米ができるまで

3月 田おこし



4月 苗作り



5月~6月 しろかき・田植え



6月~9月 あぜの手入れ・水の管理



9月~10月 収穫



脱穀・精米



参考資料 | 国産米の産地別生産量調査報告書(令和5年度) | <https://www.cfbv.or.jp/kansai/machokuri-bakeryood/teigyou/sokushu/hanmadai/saizen/>

横浜市の農業にふれることのできる場所

農業を守ることや地域の活性化を目的に、農景観を守る取り組みとして「横浜ふるさと村」2カ所、「恵みの里」5カ所が市内に存在するよ。



横浜市の農業にふれてみよう!!

横浜市では、農にふれ、体験できる場として「横浜ふるさと村(寺家・真岡)」「恵みの里(田原・船岡・新宮・栗ヶ崎)」「北八所」を指定しているよ。田植えや稲刈りの体験、さまざまな農体験イベントを行っているよ!

横浜の田んぼにたっぷり知ろう!!

「まぜまぜ」な役割があるよ!!



田んぼは都市を「守ってくれる」!

田んぼは都市を「守ってくれる」! 都市の発展に伴って、田んぼの減少が懸念されています。田んぼは、都市の水質浄化や防災機能、生態系保全などに重要な役割を果たしています。

生き物にとっても田んぼは大切!

田んぼは、防災機能、生態系保全などに重要な役割を果たしています。田んぼには、水田生物と呼ばれる生き物がたくさん住んでいます。水田生物は、水田の生態系を維持するために重要な役割を果たしています。

今年も新米の季節がやってきましたよ。田んぼには、お米を作るだけでなく、私たちの暮らしにとって大切な役割がたくさんあるんだよ。今回は、そんな田んぼについて、くわしく知ろう!!